

平成27年度第3回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

平成28年1月8日（金） 13時30分～15時00分

II 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

III 出席者

1 委員 20名中16名出席

小笠委員、梶原委員、小清水委員、小林委員、下岡委員、田川委員、鍋島委員、仁方越委員、西野委員、東川委員、古川委員、本川委員、満田委員、山下委員、山本委員、要田委員
（欠席：鎌田委員、菊田委員、崎田委員、日高委員）

2 オブザーバー 3名中2名出席

宮原オブザーバー、上村オブザーバー、
（欠席：藤岡オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、健康福祉局障害福祉部障害福祉課長

IV 会議次第

1 開会

2 議事

「広島市スポーツ振興計画」の見直しに係る答申案について

3 閉会

V 公開・非公開の別

公開

VI 傍聴者

無し

VII 会議資料

平成27年度第3回広島市スポーツ推進審議会 次第

広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

平成27年度第3回広島市スポーツ推進審議会配席図

議事関係

議事資料1：広島市スポーツ振興計画の見直し（案）

議事資料2：平成27年第2回広島市スポーツ推進審議会における意見等及び計画見直し案

議事資料3：広島市スポーツ振興計画の見直しについて（答申案）

Ⅷ 会議・発言の要旨

1 開会

2 議事

「広島市スポーツ振興計画」の見直しに係る答申案について

〔東川会長〕

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

早速議事に入らせていただく。本日の議事は、広島市スポーツ振興計画の見直しに係る答申案についてである。

前回の審議での議論を踏まえた答申案について、事務局から説明していただく。

〔スポーツ振興課長〕

(議事資料1、2及び3説明)

〔東川会長〕

それぞれの資料に基づき説明していただいた。前回の審議会で御意見いただいた内容についても、新たな見直しの中に反映できるところを取り込みながらまとめていただいた。

資料については、事前に送らせていただいていたが、皆さんから御意見、気づき等あれば頂きたい。

〔全委員〕

(意見なし。)

〔東川会長〕

それでは、計画の見直し案については、事務局から説明していただいた内容案ということで決定してよいか。

〔全委員〕

異議なし。

〔東川会長〕

では、そのように進めさせていただく。今回の審議会で用意した議事は以上である。全体に係ることで、皆さんから御意見、御質問、御要望等あればお願いしたい。

〔鍋島委員〕

今回の広島市スポーツ振興計画の見直しは、変わり行く日本のスポーツ環境の中で、的を射た提案であったと思う。特にライフステージに応じた健康・体力づくりという中で、若者のスポーツの機会をどう促進させるか、高齢者の健康づくりにどう貢献できるかというような課題があった。健康で自立した生涯づくりは、全ての市民の願いだと思っている。スポーツは、この願いの実現を支援する、私たちの人生を生き生きとさせてくれる素晴らしい文化ではないかと思う。スポーツを真ん中に据えた、市民を巻き込むチャレンジが求められていると思う。色々な計画の見直しに関わってきたが、特に今回の見直しは、これまでの枠を超えたものがあった。

生き甲斐や健康寿命といったものを前面に出してスタートしたわけだが、ラジオ体操の復活もユニークなことであり、市民総ぐるみで取り組めないものかと思っている。今回新たに付け加えてもらったシニアのウォーキング、自転車利用の促進、障害がハンディにならない街づくりをするためのスポーツの役割があるかと思う。市民意識をどう高揚するか、オリンピック・パラリンピックに向けた地域での取り組みというものが、スポーツ先進県、スポーツ王国広島にとって大切な課題ではないかと思う。また、今回付け加えていただいた、スポーツツーリズムも市民の意識を変えることにつながるし、全て前例のない取り組みかと思う。これらをどう市民に伝えていくかということが、今回問われている課題である。市民の声を聞くというのは一般的なやり方で良いかと思うが、その後、先ほど挙げた課題を市民が直接知って、取り組もうという気持ちを起こさせるには、どういう広報が必要なのかということになる。一般的に言われているマーケティングミックス4Pから言うと、プログラムについては、スポーツは魅力的な内容であるし、プレイス（場所）は、今回新たに場作りをしていこうという姿勢も出した。プライスも、スポーツセンターを中心に、費用が適切な形での運営が出来ている。やはりプロモーション、どういう宣伝、広報活動をすれば良いかということが大きな課題になってくる。行政を中心にやると、全員参加の形を出していかなければならないのかもしれないが、具体的な宣伝に移ったときは、個人がやってみようという気持ちが起きるような情報の提供の仕方を考えていくことが必要になってくる。スポーツが生き甲斐を持つことや健康寿命の延伸につながるという運動を、明確に市民に届けるプロモーションの展開をお願いしたい。

〔東川会長〕

全体をまとめていただく御意見をいただきうれしく思う。その他いかがか。

〔梶原委員〕

今回の見直しで、これまで足りなかった部分や分野に新しい取り組みの課題を掲げていると思う。ということは、広島市の中でこれを実現していくための体制が必要になる。市民局のスポーツ振興課が所管課であるが、そのスタッフの充実・強化や、スポーツツーリズムとなると、経済観光局とも関わりがスポーツを通じて強くなっていく。例えば、スポーツ関係者会議のようなものを庁内に作るとか、トップスも含めた常設の官民の実務レベルの連絡協議会を作り、常時の情報交換や意思疎通を図る。こういうことを地道に進めていけば、この計画が深く浸透し、広がっていく。スポーツ推進委員の皆さんや、学区体協の組織にまで浸透していけば、市民の生活につながっていくと思う。職員を何人増やさないということではなく、組織づくりで体制ができていくと思うので、そこに意を用いていただきたい。

〔東川会長〕

今いただいた内容は、見直し案において触れるべきだったかと個人的には反省している。今後の取り組みの具体的な展開に活かしていただきたい意見かと思う。

それでは、これをもって本日の審議はひとまず終了とさせていただく。事務局から連絡事項等あれば願います。

〔事務局〕

今後のスケジュールについては、今月下旬頃、会長から市長宛ての答申書を提出していただく予定となっている。併せて、皆様にも答申書の写しを送付させていただく。その後、答申を踏まえ、市の計画見直し案を作成した上で、2月に市民意見を募集し、教育委員会議を経て、

3月に計画の見直しを行う予定としている。

最後に、市民局長の谷本から審議会委員の皆様にお礼を申し上げさせていただく。

〔市民局長〕

皆さん、大変ありがとうございました。昨年5月以来、3回の審議会、長期間に渡り御審議いただきまして大変ありがとうございます。この答申自体も大変有意義なものになったのではないかと考えており、委員の皆様のおかげだと思っている。また、計画の進め方や体制の話もいただいた。計画の中でも、このスポーツ推進審議会へ実施状況等を報告するようにしているので、その中で、具体的な御意見等がございましたら、お伺いしながら進めていきたいとも考えている。新しいスポーツ王国広島を目指してということなので、鍋島委員からありましたように、行政だけでなく、広く市民にスポーツが浸透するよう、我々としても、微力ではあるが努力していきたいと考えているので、どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

〔東川会長〕

それでは、本日の審議会は以上で終了とさせていただく。今、谷本局長からもあったが、3回の審議会、その間には見直し検討部会にも関わっていただいた委員の皆さんにも数回御出席いただきながら、先ほど委員からあったように、新しいスポーツ王国広島に近づいていく見直し案ができたかと思う。度々お集まりいただき、また、色々な形で御意見をいただいたことに対して、この場を借りて改めて御礼を申しあげる。

以上をもって閉会とさせていただく。ありがとうございました。

3 閉会